

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 中学校音楽科における学びがつながることを目指した問いの工夫と振り返りの工夫を通して —

指導主事 村上 龍次

研究協力員 南関町立南関中学校 教諭 園田 仁

1 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

生徒たちが「見方・考え方」を働かせ、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりしながら、問題を解決していくようにすることを目指し、『見方・考え方』に着目した問いの工夫を設定した。

音楽科の「見方・考え方」は、新学習指導要領解説音楽編では、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働き の視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること」と示されている。

さらに、音や音楽を捉えるとは、「音楽がどのように形づくられているか、また、音楽をどのように感じ取るかを明らかにしていく過程を経ること」と示されている。

この「音楽的な見方・考え方」が働くようにするには、「なぜ、その音色なのか」「強弱をそのように表現して、何を伝えたかったのか」等を課題とする、「音楽を形づくっている要素」に着目した「問い」が有効ではないかと考えた。また、一単位時間及び題材全体の構成を工夫する中で、「音楽を形づくっている要素」に着目した「問い」を提示することで、音や音楽を捉えるきっかけとし、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりする学習活動の充実が図られると考えた。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

学習活動を通して、生徒たちが自身の成長を実感し、次の活動につなげることができるようにすることを目指し、「学びを実感する振り返りの工夫」を設定した。

学習内容の深まりや広がりであったり、他者との協働による解決場面等の学習方法であったり、これらのよさを生徒たち自身が認識できるようにすることが、学びを実感するために重要であると考えた。

そのためには、教師側から学びの価値を示すことと、生徒たち自身が学びの価値に気付くことの両面があると捉えた。

そこで、授業を行う教師が適切な場面で学びのよさを価値付けることとした。また、生徒たち自身が学びの価値に気付くことができるよう、自己評価の際に「何ができるようになったか」「音色と強弱を工夫したことでどんな旋律（合唱）になったか」「これからに生かしたいことは何か」など、振り返りの視点を明確に示すこととした。

2 研究の実際

検証 中学校第2学年

単元名 仲間とともに、表情豊かに合唱しよう
「今日は君の Birthday」

(1) 本単元の授業設計

① 生徒の実態から

本学級は、音楽を好きな生徒が多く、男女の仲もよく協力しながら意欲的に歌唱活動に取り組んでいる。各パートの人数は、ソプラノ6人・アルト8人・男声16人で、バランスよく合唱編成を組むことができる。一方、歌唱活動に対して苦手意識をもっている生徒は、ソプラノに1人、アルトに2人いる。さらに、男声では変声期に入り苦手意識を持つ生徒も見られる。

音楽を形づくっている要素の中で、生徒が意識しているものは、「強弱（82.8%）」「音色（72.4%）」「リズム（72.4%）」「速度（58.6%）」であった。しかし、これは曲中に指示された記号を意識しているものであり、実際に曲想に応じた歌唱表現を行うまでには至っていない。

② 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の第2各学年の目標(2)「多様な音楽表現の豊かさを感じ取り、表現の

技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。」を受け、A表現－(1)ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。」、ウ「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」をねらいとしている。

本教材は、大切な人に思いを寄せる内容の歌詞になっている。曲にはさまざまな声部の重なり方が盛り込まれており、各パートの役割を理解して合唱することが期待できる。また、[共通事項]の中から音色・強弱に着目させ、なぜその部分に記号がつけられているのかを考えたり、どのような音色で歌うのかについて意見交換したりして、思いや意図をもって表現を工夫するのに適している。

これらのことから、本単元において歌詞の内容や曲想と音楽の構造などとの関わりについて、音楽を形づくっている要素に着目し表現の工夫を行う学習は、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

③ 指導観及び研究の視点

ア 指導観

○指導にあたっては、パートリーダーのもとグループ活動を中心に進めていく。話し合いの活動では、各パートの役割と音楽の要素をもとに、工夫点を考えさせる。パート練習では、範唱音源を使って練習を進めていく。指導者は各パートを巡回し、工夫点の表現ができているかを確かめていく。

○整理の過程では、タブレットで録画した自分たちの合唱を鑑賞し、1時間の取り組みを客観的に振り返る時間を設ける。

イ 研究の視点

(ア) 研究の視点1

①音楽を形づくっている要素についての問いを設定することで、音楽的な見方・考え方を働かせて表現の工夫ができるようにする。

(イ) 研究の視点2

②ビデオ視聴により、前の表現と比較し表現の工夫が分かるようにする。
③表現の工夫だけではなく、資質・能力についても振り返らせることで、「何ができるようになったか」を意識できるようにする。

④ 単元の目標及び評価規準

単元の目標	歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解し、曲にふさわしい表現を仲間と一緒に工夫して表情豊かに合唱することができる。
音楽への関心意欲態度	①歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ②声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
音楽表現の創意工夫	①音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。 ②歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。 ③声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。
表現の技能	①歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。

⑤ 単元計画

単元を貫く問い：伝えようクラスの「思い」、響かせよう美しいハーモニー。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 各パートの旋律のイメージをつかむ。 2 パート練習に取り組む。 3 合唱に取り組む。	【関心・意欲・態度】②：観察 【音楽表現の創意工夫】①：観察 【表現の技能】①：観察 【研究の視点1】 ①音楽の要素についての問いを設定することで、リズムや旋律を工夫して歌えるようにする。
二	2	1 曲のつくりと各パートの役割を確認する。 2 パート練習に取り組む。 3 合唱に取り組む。	【関心・意欲・態度】②：観察・ワークシート 【音楽表現の創意工夫】③：観察・ワークシート 【表現の技能】①：観察 【研究の視点1】 ①音楽の要素についての問いを設定し、各パートで旋律・音程を工夫して歌えるようにする。
三	3	1 3つのグループで、歌詞に込められた「思い」について話し合う。 2 パート練習に取り組む。 3 合唱に取り組む。	【関心・意欲・態度】②：観察・ワークシート 【音楽表現の創意工夫】①：観察・ワークシート 【表現の技能】①：観察 【研究の視点1】 ①音楽の要素を基に、工夫点を考えさせる。 【研究の視点2】 ②録画した本時の合唱を鑑賞し、学びを実感させる。
四	4 (本時)	1 3つのグループで、各工夫点について話し合う。 2 パート練習に取り組む。 3 合唱に取り組む。 4 思いが伝わる合唱になっていたか振り返り、解決する方法を考える。	【関心・意欲・態度】②：観察・ワークシート 【音楽表現の創意工夫】①：観察・ワークシート 【表現の技能】①：観察 【研究の視点1】 ①音楽を形づくっている要素についての問いを設定することで、音楽的な見方・考え方が働くようにする。 【研究の視点2】 ③表現の工夫だけではなく、資質・能力についても振り返らせる。

(2) 指導の実際（4／4時間）

過程	学習活動及び指導上の留意点
導入	1 合唱コンクールを振り返り、感想を述べる。 2 本時の目標を確認する。 学習目標（めあて） 「今日は君の Birthday」を、思いが伝わる合唱に仕上げよう。
展開	3 [本時の問い]について話し合う。 歌詞の内容や曲想（感じ取ったこと）から、「音色」や「強弱」をどのように工夫したらいいか考えよう。 【研究の視点1】① 音楽を形づくっている要素についての問いを設定することで、音楽的な見方・考え方が働くようにする。 (1) 合唱コンクールのビデオを視聴する。 (2) 自分の考えをもつ。 (3) アイデアを共有する。 (女子パートの一部) 「サビの部分は前向きな歌詞なので、明るい声で歌おう。」 「冒頭の p からサビの f まで、強弱をつけて歌おう。」  「自分が思っているより音色が美しくなかった。」
	4 パート練習に取り組む。 (1) 「音色」「強弱」をポイントに練習に取り組む。 5 合唱練習に取り組む。 (1) 「旋律」をポイントに練習に取り組む。 (2) 1曲通して合唱する。 (女子パートの一部) 「笑顔を意識することで明るい歌声で合唱することができた。」 「強弱を付けて歌うことにより、サビの f が引き立つ合唱にすることができた。」 
	評価：表現（観察） B基準 どのように歌うかについて、班で協力して掲示用シートにまとめ、表現しようとしている。
整理	6 学習したことを振り返る。 【研究の視点2】③ 表現の工夫だけではなく、資質・能力についても振り返らせる。 (1) 録画を見る。 (2) 気づきを記録し、発表する。

(3) 検証結果と考察

①「豊かな学び」について

表1は、豊かな学びの「学習活動の充実」と「成長の実感」について見取る質問紙調査の結果である。

表2は、単元末に自由記述による振り返りを行っ

たものである。

本実践の検証結果とその考察について、研究の視点による「学習活動の充実」からの観点と、「成長の実感」からの観点からの2点について述べる。

表1 学び全体の変容（n=30）4件法

ア 研究の視点1について

	質問	事前	事後	変容差
学習活動の充実	学習のとき、要素に着目しながら問題を解決しようとしている。	3.03	3.20	+0.17
	学習のとき、様々な解決方法を試しながら、問題を解決しようとしている。	2.87	3.05	+0.18
	学習のとき、一人一人ができることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている。	3.07	3.33	+0.26
成長の実感	授業のとき、「分かるようになった」や「できるようになった」と感じる。	3.23	3.30	+0.07
	これまでに学んだことを生かして（教科等の）学習に取り組んでいる。	3.13	3.20	+0.07
	学習で学んだことをこれからの学習や生活に生かそうとしている。	3.13	3.23	+0.1

表1から、変容が認められたのは、「学習のとき、一人一人ができることを生かしながら、友達や先生と一緒に問題を解決しようとしている。」の項目である。各パートの活動を中心におき、自分たちの合唱の課題を音色や強弱と捉えて取り組むことで、より課題の解決に向けて協働することができたと考えられる。また、「音楽的な見方・考え方」に関するものとして設定した「学習のとき、要素に着目しながら問題を解決しようとしている。」においては、表2に、「男女のバランスがしっかりととれて、サビが引き立つようになった。」「表情を明るく歌うことによって歌声も明るくなった。」「強弱を工夫することで優しく歌えるようになった。」との記述も見られることから、音楽を形づくっている要素の見方・考え方を働かせることで、曲想と音楽の構造との関わりについて意識が高まったと考えられる。

イ 研究の視点2について

表2から、「幸せな気分で歌うと、歌がとてもよくなった。」「どんなことも乗り越えられるように頑張ります。」「もうすぐお母さんの Birthday なので、歌って聴かせてあげたいです。」など、学んだことを今後の学習や生活に生かそうとする感想が多く見られ、

振り返りの視点を明確にしたことで、子供たち自身が学びを実感することができたと考えられる。

表2 自由記述による振り返り

質問	回答
できるようになったことは何ですか。	・みんなが最後まで笑顔だった。 ・表情がものすごく明るくなった。 ・表情をつけられるようになった。 ・強弱をつけることができるようになった。 ・伸ばすところを、より伸ばせるようになった。
音色と強弱について工夫したことによって、どんな旋律（合唱）になりましたか。	・はっきりと歌声がきこえる。表情を明るく歌うことによって歌も明るくなったと思う。 ・男女のバランスがしっかりととれていた。 ・強弱や声量もバッチリだった。 ・はっきり言葉がきこえた。 ・サビが引き立つようになった。 ・きれいに歌えるようになった。 ・優しく歌えるようになった。 ・強弱を工夫する事で優しく歌えるようになった。
学習をして、幸せな気分が歌えましたか。または、幸せな気持ちを伝えることができたか。それは、これからの学校生活で生かれますか。	・笑顔で歌うことによって気分も上がり、声を出しやすくなりました。 ・みんな笑顔で歌うことで、見ている人まで笑顔になれる。 ・幸せな気分が歌うと歌がとてもよくなった。これからの学校生活も楽しく過ごしたいです。 ・気分が落ち込んだ時に聴いてみたいと思う。 ・幸せな気持ちで、どんなことも乗り越えられるように頑張ります。 ・もうすぐお母さんの Birthday なので、歌って聴かせてあげたいです。 ・家族の誕生日の時に「おめでとう」と言います。

②「未来の創り手」について

表3は、「未来の創り手」について見取る質問紙調査の結果である。

表3 「未来の創り手」に関する変容
(n=30) 4件法

	質問	事前	事後	変容差
未来の創り手	自分は、学校生活や学習を通して、自分自身が成長したと思う。	3.17	3.10	-0.07
	自分は、学校生活や学習を通して、周りの人が成長していると思う。	3.33	3.17	-0.16
自分の成長を感じ取る	自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から成長を認められていると思う。	2.73	2.97	+0.24
	自分は、学校生活や学習を通して学んだことをもとに、自分自身が主体的になったと思う。	2.97	2.90	-0.07
	自分は、学校生活や学習を通して学んだことをもとに、周りの人が主体的になったと思う。	3.10	3.07	-0.03

表3の結果から、「未来の創り手」に関しては、「自分は、学校生活や学習を通して、周りの人から、成長を認められていると思う。」については向上が見られた。振り返りの中で、「授業や合唱コンクールの取

り組みの中で頑張っていた人とその理由」を挙げたことで、「認められた」という意識が高まったものと考えられる。しかし、全体的には変容が明らかにならなかった。子供たちが自分自身や周りの人の「成長」や「主体性」についての評価の経験が少ないことや本実践を通して「できるようになりたい」「思いの通りに歌いたいけど、まだ歌えていない。」ということを感じ取っていることが理由であると考えられる。

3 研究のまとめ

今回、中学校音楽科では、研究の視点によって「豊かな学び」につながったかを検証した。

(1) 成果

視点1の『見方・考え方』に着目した問いの工夫により学習活動が充実し、音楽を形づくっている要素についての生徒の感受や表現の工夫が高まったり、課題を共有して解決のための工夫を行ったりするなど、一定の成果が認められた。また、視点2の「学びを実感する振り返りの工夫」については、「卒業式では、今回学んだことを生かして合唱をしたい。」という感想があり、学んだことを生活に生かそうという思いの高まりが見られた。これらのことから、「豊かな学び」につながったと考える。

(2) 課題

生徒自身が自分の成長を感じ取るための「分かった」「できた」を実感する学習展開、振り返りのタイミング、振り返りの手法などについて考える必要がある。技能面では、基礎的な発声や歌唱指導をこれまで以上に充実させ、更に美しい歌声を目指し、他者や他の声部の声、全体の響きなどを意識して、他者と合わせて歌うよさや必要性を感じながら技能を身に付ける手立てを考えていきたい。

また、「未来の創り手」に関する資質・能力については、更なる精査が必要であり、「未来の創り手」としての姿を明確に設定することが求められる。今後も研究テーマに迫る実践的な取り組みを創造していきたい。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説音楽編』
- ・文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説音楽編』